

2023年度 卒業時における学修成果に関するアンケート

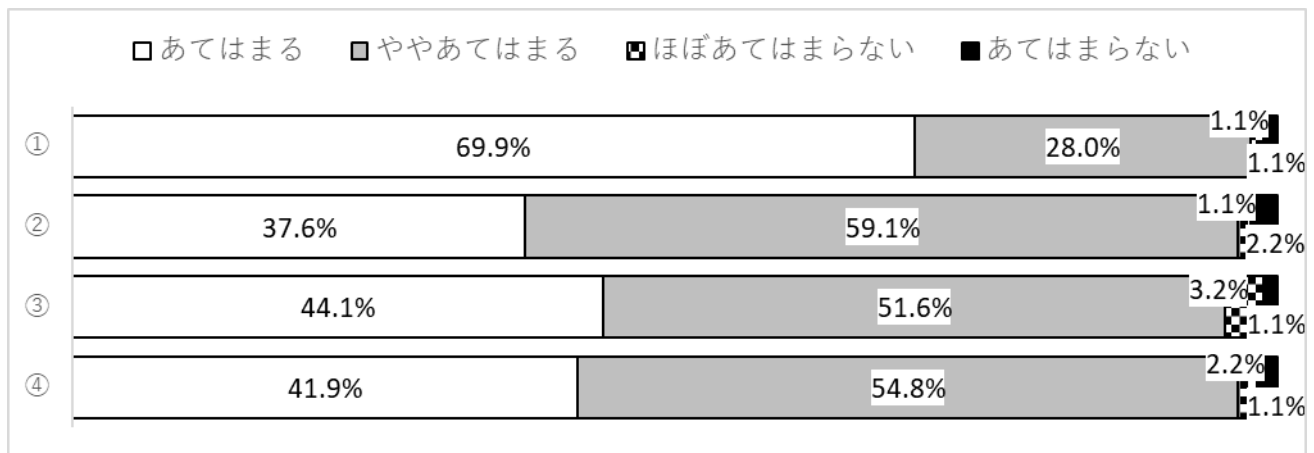
実施日：2024年1月

回答者：M6 93名（回答率91.2%）

1 各項目における自己評価

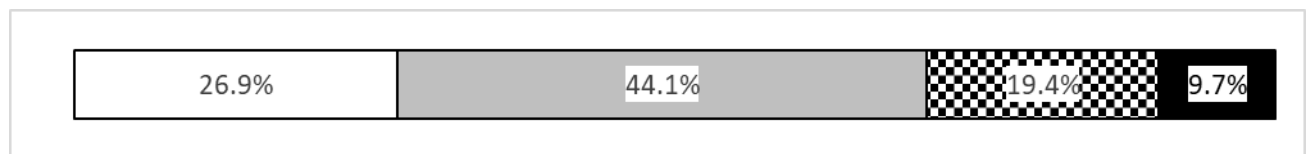
1.1 理念について

- ① 本学の理念である「智仁勇」について知っている
- ② 「智」すなわち医学的知識と技能を習得することのみならず、効果的な学修のためのアルゴリズムを獲得し、生涯にわたる自学自習を開始できる
- ③ 「仁」すなわち人を分け隔てなく、温かく受け入れる心を身につけ、国際的視野を持ち、人類に貢献する高い志を習得している
- ④ 「勇」すなわち科学的思考に基づいた判断力・問題解決能力を身につけ、修得した医学を実践する決断力を習得している



1.2 卒業時コンピテンスについて

本学の学習成果/卒業時コンピテンスについて知っている

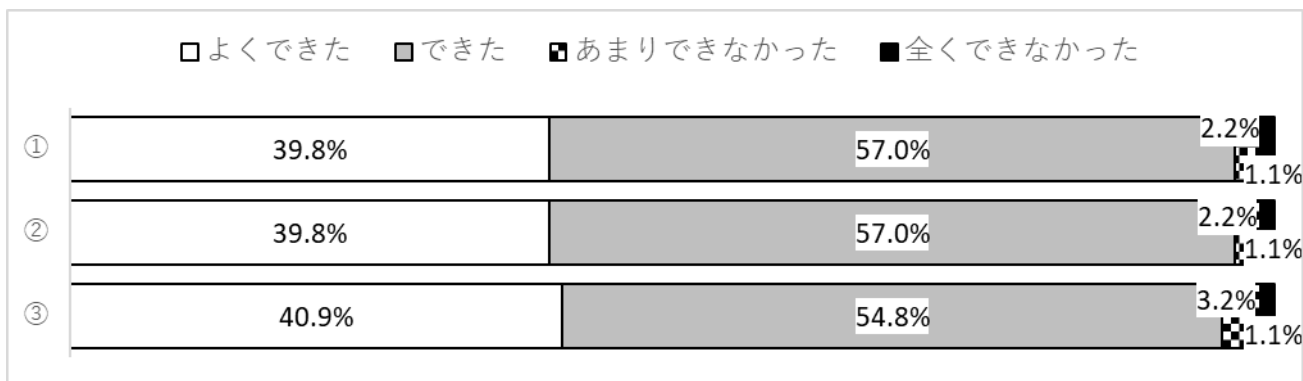


【カリキュラム評価委員会戦略部会からのコメント】

約3割が卒業時コンピテンスについて認知不足であり、さらなる周知が必要である。

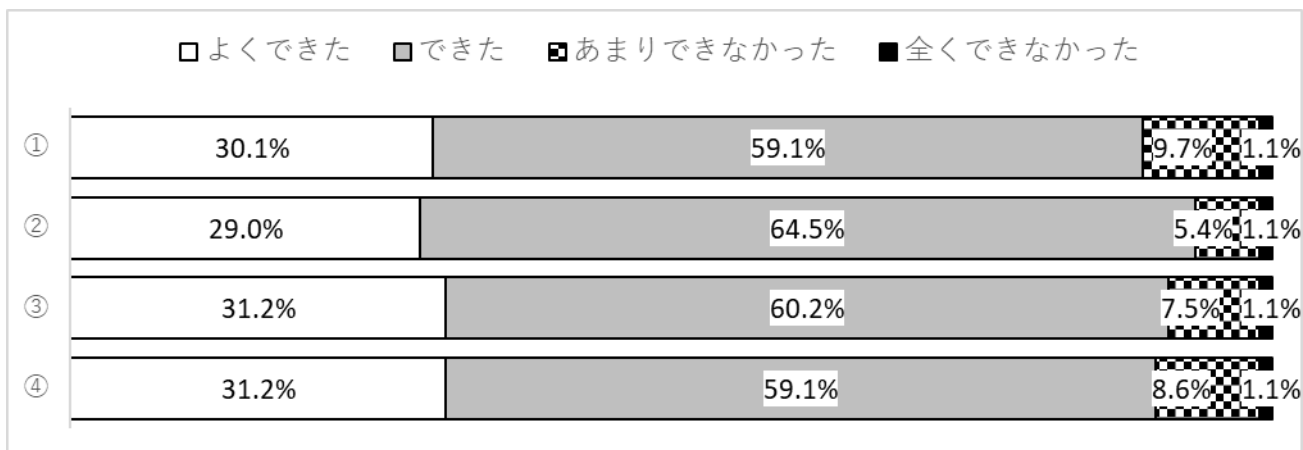
【プロフェッショナリズム】

- ① 患者および家族のニーズを認識し、患者中心の医療を提示、実践することができる
- ② 医療専門職として社会における自己の役割を理解し、継続的に学修することができる
- ③ 高いモラルを持ち、品性のある行動をとることができる



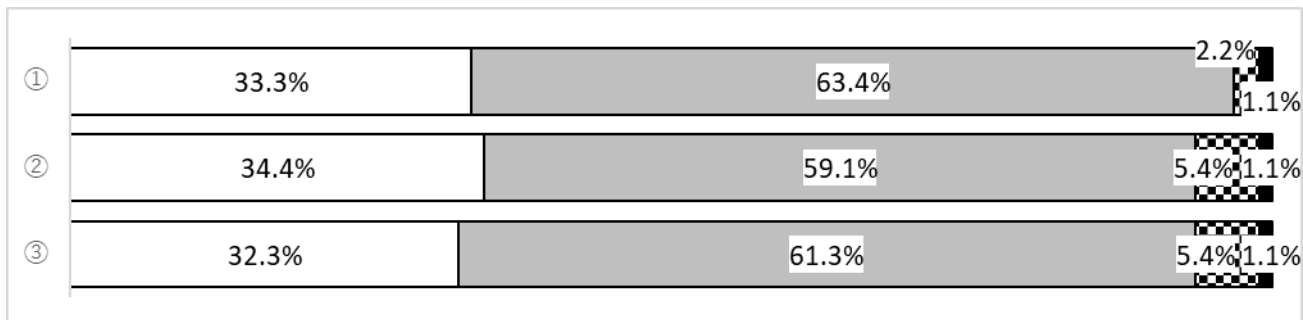
【医学知識と問題対応能力】

- ① 診療や研究の基盤となる基礎医学の領域の基礎的知識を修得し、応用することができる
- ② 診療や研究の基盤となる臨床医学の領域の基礎的知識を修得し、応用することができる
- ③ 診療や研究の基盤となる社会医学の領域の基礎的知識を修得し、応用することができる
- ④ 医療の基盤である生命科学、行動科学などの関連領域の知識と原則を理解し、医療の現場で実践することができる



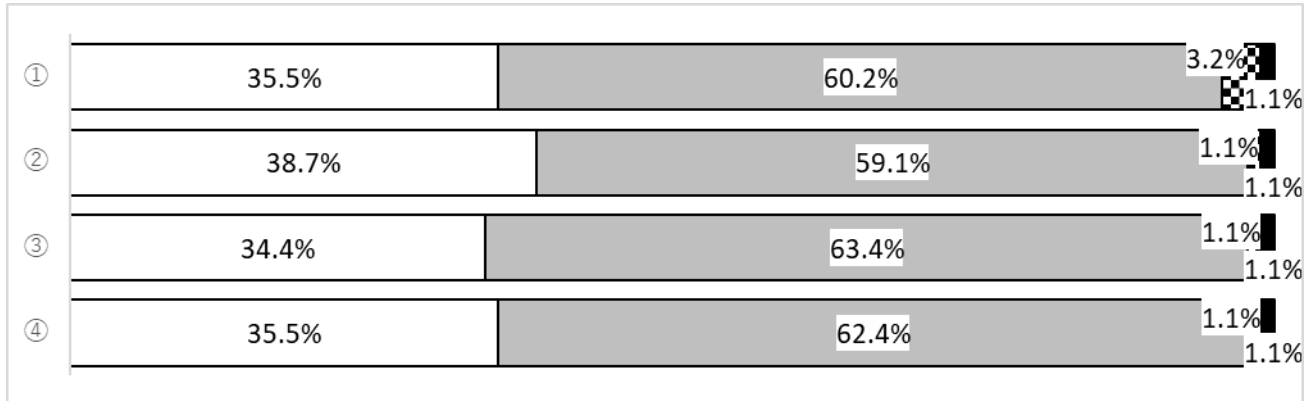
【診療技能と患者ケア】

- ① 論理的で体系的な医療面接、身体診察を行うことができる
- ② 頻度の高い疾患に関して、適切な鑑別診断と治療戦略を立てることができる
- ③ 基本的な臨床手技や緊急救命処置を安全に実践することができる



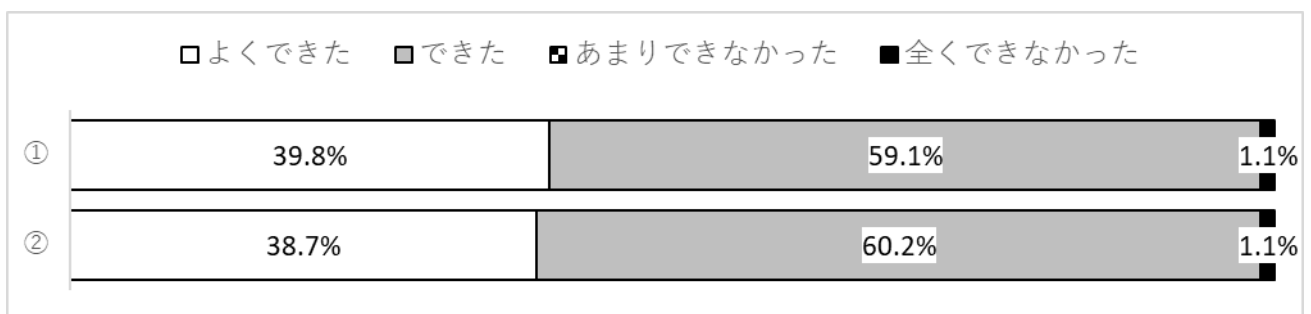
【コミュニケーション能力】

- ① 患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援することができる
- ② 患者や家族の抱える問題を身体・心理・社会的側面から把握することができる
- ③ 適切な症例プレゼンテーションを行うことができる
- ④ 患者の状態について、報告・連絡・相談ができる



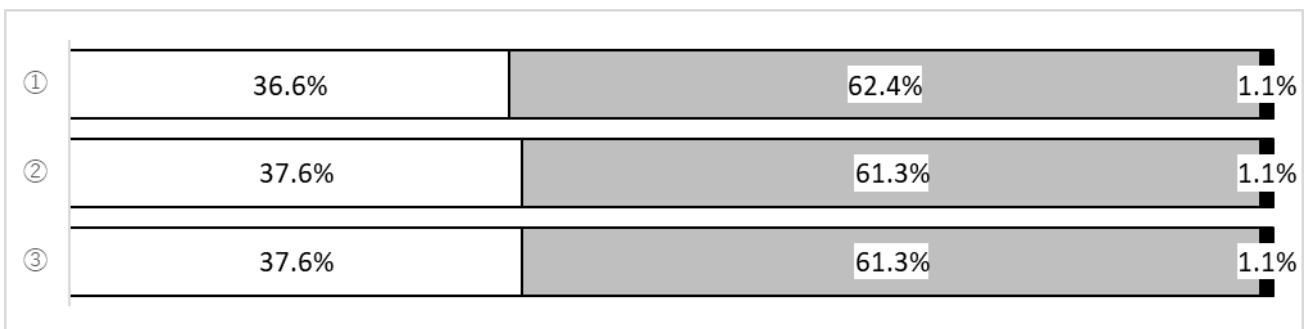
【チーム医療の実践】

- ① 医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する
- ② チームの各構成員と情報を共有し、連携を図る



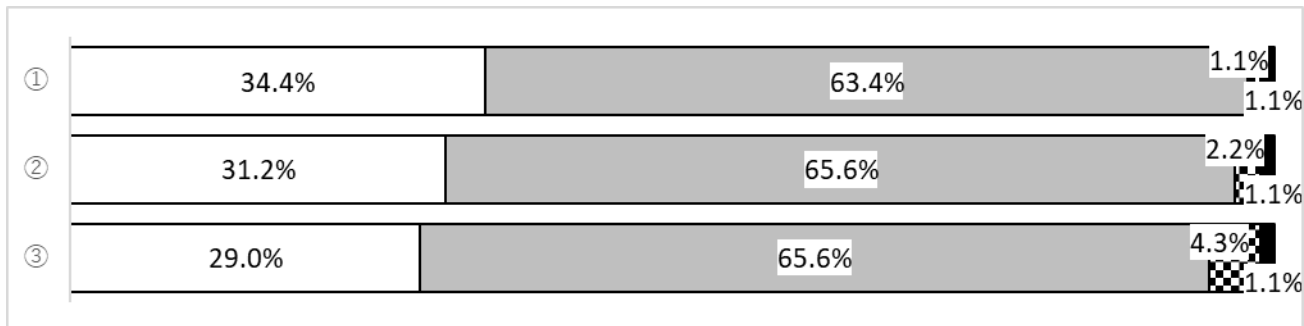
【医療の質と安全の管理】

- ① 医療の質と患者安全の重要性を理解する
- ② 医療事故等の予防と事後の対応を知る
- ③ 医療従事者の健康管理（予防接種や針刺し事故への対応を含む）を理解し、自らの健康管理に努める



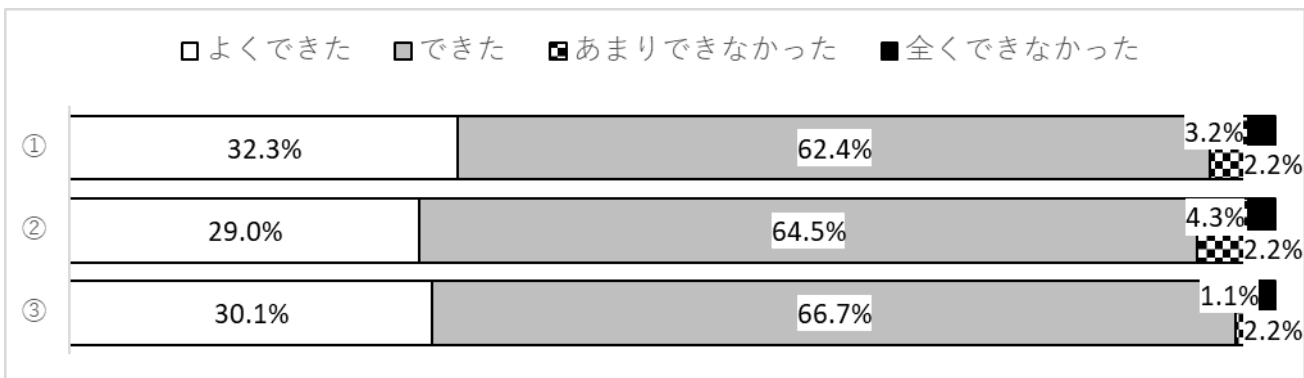
【社会における医療の実践と大阪住民の幸福に貢献する力】

- ① 保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する
- ② 大阪の地域医療に携わり、指導/監督のもと診療に参加できる
- ③ 大阪の医療の現状、課題を理解する



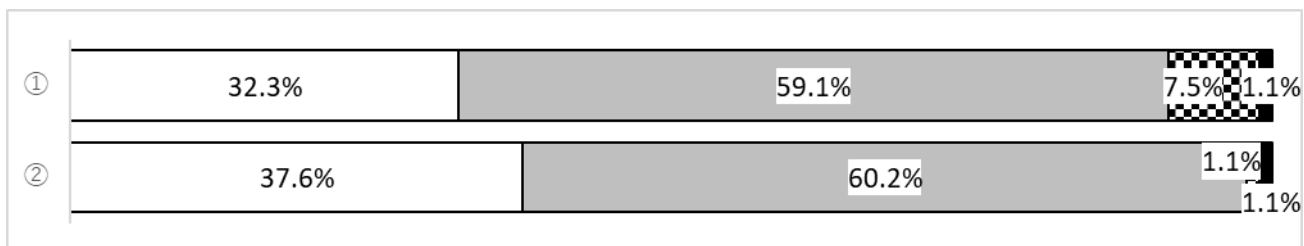
【科学的探究】

- ① 医学及び医療上の疑問点を挙げることができ、適切にエビデンスを収集できる
- ② 科学的研究方法を理解する
- ③ 研究の意義を理解し、参加、協力できる



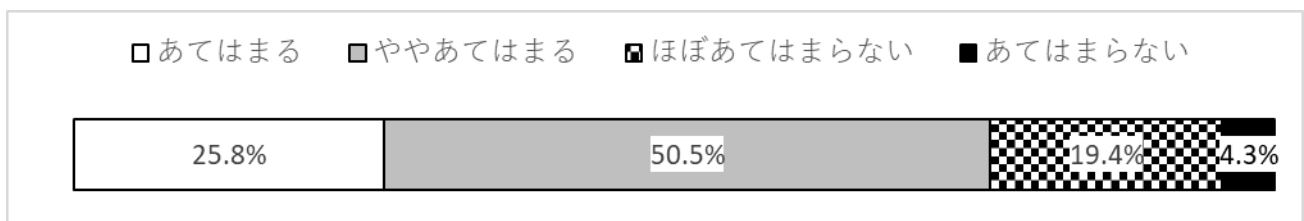
【生涯にわたって共に学ぶ姿勢】

- ① 国際的な広い視野をもち、急速に変化・発展する医学知識を学び、吸収できる
- ② 同僚、後輩、医師以外の医療職と互いに教え、学びあうことができる



1.3 総合評価

明日から、医師として働く自信がある



【カリキュラム評価委員会戦略部会からのコメント】

「社会における医療の実践と大阪住民の幸福に貢献する力」「科学的探究」「生涯にわたって共に学ぶ姿勢」が昨年度よりも向上している。選択型 CC における EX の改善、修業実習、PBL の導入、チーム医療等が功を奏していると考えられる。

2 大学生活を振り返って

2.1 6年間の大学教育でもっともよかったと思うこと（複数回答のものを掲載）

- ・臨床実習が充実していたこと(34)
- ・実習などにおける綿密な指導(11)
- ・解剖実習(5)
- ・自主性を重んじて学習に励むことができた環境(5)
- ・クラブ活動(5)
- ・仲間・友達がたくさんできた(5)
- ・人として成長できた(3)
- ・低学年から実習の機会があった(3)
- ・医学的知識を習得できた(2)
- ・医師になる自覚を持つことができた(2)
- ・智仁勇に沿ったしっかりとした教育(2)
- ・医療面接・コミュニケーション教育(2)
- ・SSC などを通じて実習で様々な経験を積めたこと(2)
- ・充実した学生生活(2)
- ・特になし(4)

2.2 6年間の大学教育でもっとも改善すべきだと思うこと（複数回答のものを掲載）

- ・英語教育(8)
- ・留年するシステム(3)
- ・試験難易度の差(2)
- ・コロナ禍の過ごし方(2)
- ・特になし(46)

2.3 6年間の大学生活で何を得たか（複数回答のものを掲載）

- ・医学の知識(26)
- ・仲間・友人(25)
- ・コミュニケーション能力(20)
- ・医師になる覚悟、心得(10)
- ・社会性・社会経験(5)
- ・人脈(4)
- ・コツコツ努力すること(4)
- ・智仁勇(3)

- ・体力(3)
- ・人間性(3)
- ・協調性(3)
- ・組織力(3)
- ・精神力(2)
- ・将来の方向性(2)
- ・特になし(4)

【カリキュラム評価委員会戦略部会からのコメント】

半数以上が最もよかったこととして実習を挙げ、最も改善すべきこととして「特になし」と回答しており、充実した教育プログラムを提供できており大きな問題点はないと考える。

3 目指す将来像（複数回答のものを掲載）

- ・誰からも信頼される医師(15)
- ・患者さんに寄り添える医師(14)
- ・智仁勇を兼ね備えた医師(6)
- ・人の気持ちに配慮できる医師(4)
- ・しっかりとコミュニケーションが取れる医師(4)
- ・地域や社会に貢献できる医師(3)
- ・優しい医師(2)
- ・自立した医師(2)
- ・模範的な医師(2)
- ・良いお医者さん(2)
- ・患者に共感する医師(2)
- ・全人的な医療を施せる医師(2)
- ・また診てもらいたいと思われる医師(2)
- ・特になし(6)

【カリキュラム評価委員会戦略部会からのコメント】

目指す将来像に「仁」を重んじた回答が多くみられ、本学の理念は十分に浸透していると考ええる。